

## 平成 29 年度 第1回秋葉区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 29 年8月30日(水)午後1時30分から午後2時50分まで
会場	秋葉区役所 6階 601・602会議室
出席者	秋葉区自治協議会委員 25名(欠席 5名) 教育委員:齋藤教育委員、山倉教育委員 事務局:教育次長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 新津図書館長、秋葉区教育支援センター所長 他 2名 秋葉区役所:熊倉区長、小野副区長、松屋地域課長 傍聴者: 1名
議事	1 開会 2 教育委員挨拶(齋藤教育委員、山倉教育委員) 3 平成 29 年度教育委員会の施策について(教育次長) 4 意見交換(司会 秋葉区教育支援センター所長)
司会	ありがとうございました。 この後、意見交換に入りますが、こちらのほうで記録しながらお話を進めさせていただきたいと思います。 今日のテーマは、学校と地域のこれまでのかかわりです。秋葉区の学校と地域のかかわりについて成果と課題を出していただき、今後どのような方向に向かうべきかということをお話いただき、最後、社会教育施設との関連について、今日は図書館の取組みも紹介させていただきますので、そういった話をしていきたいと思っています。 なお、先ほど教育次長から説明いただいたこの中にも秋葉区の取組みがたくさん入っています。この中を見ていただくと成果がたくさんあるなと思いますので、この資料の中でも参考にさせていただきたいですし、センターのほうで作って事前にお送りしましたこちらの資料も、各コミュニティ協議会でどのような活動がされているか、ほんの一部ですけれども紹介させていただきました。それから、今日お集まりの関係団体の方の取組みも中に入れさせていただきました。こうやって見るといかに多く学校とかかわっているかということがよく分ると思いますので、今日お配りしたその二つの資料を基に、成果、課題、今後どうあるべきかということをお話させていただきたいと思います。その中で、今の施策にかかわることがありましたら出していただきたいと思います。最初、これまでの取組みを振り返り、学校と地域のかかわり、どのような成果があったかということをお聞きしていきたいです。資料をもう一度見ていただいて、こんな成果があった、こんな課題があったということ、メモするなり頭で整理するなりしていただきたいです。最初に少し2、3分程度お時間を取りますので、資料をご覧ください。よろしく願います。

少し時間が短いのですが、よろしいでしょうか。

最初に、学校と地域のかかわり、これまでのかかわりを振り返って、成果、こういうことがよかったよということがありましたらお願いしたいと思えます。

なお、発言の際にはお名前をいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。いかがでしょうか。

最初に申し訳ないのですが、井浦さん、コーディネーターでだいぶかかわっていただいていたのですが、少し皮切りに、ぜひ成果をお話いただければありがたいのですが、突然で申し訳ございません、よろしくお願ひします。

井浦委員

小合東小学校と小合中学校の地域教育コーディネーターをやらせてもらっています井浦でございます。小学校のほうは8年目です。中学校のほうは7年目です。

7ページにきれいにまとめられているのですが、成果ということで、私が実際に7年あるいは8年間、学校に出入りさせてもらいましてどうだったかということですが、まず、子どもが元気になったかどうかということですが、私が行く前に比べると、子どもたちの自己肯定感が90パーセント以上になっているということで、最近いろいろな問題があつて、いじめの問題とかさまざまありますが、やはり自己肯定感是非常にこのパートナーシップをやつてからよくなつたということが、実際に子どもたちにアンケートをとつてみた結果、そうになっているそうです。今日も午前中学校の職員会議に参加させてもらいましていろいろ話を聞いてきましたが、実際にそうになっていると。それも、だんだんよくなつてきているという、そういう傾向です。ですから、子どもが元気になったという部分については、かなりよくなつたということですが、ここにも自己肯定感ということが書いてありますが、そういうことだと思えます。

学校が元気になったかどうかということですが、たしかに先生方の負担がずいぶん減つたと思えます。いままでですと、地域と連携して何かやろうと思つたときに、先生方はだいたい学校をどんどん替わられている先生が多いですから、地域のことを知らないのです。それに対して、コーディネーターが学校に入ることによつて、先生方が分からないところをコーディネーターがいろいろ地域と学校を結ぶということでは、学校の先生方が元気になっていると思えます。その辺で、学校が元気になったかどうかという部分については、よくなつていると思えます。

地域が元気になったかどうかということですが、地域の方で学校に来られる方は非常に元気です。だいたい元気な人しか学校に来ないです。どこかが悪い人はあまり来ません。気持ちの悪い人も来ません。気持ちのいい人しか学校に来ないので、そういう面では、学校に来られる地域の方が非常に元気だと。もともと元気なので、学校に来るとますます、子どもたちと話をした

りいろいろ遊んだり、いろいろなことをやっていますとそれだけでもう元気になるということです。ですから、地域の方は、そういう面では元気になっているであろうと思うのです。

課題なのですが、私が課題だと思っているのは、例えば地域の方が学校に来られるのですが、来ない人が多いのです。おそらく、今でも学校に地域の方で学校に来られる、例えば地域に1,000軒の家があるとしたら、おそらく10パーセントくらいではないかと思うのです、学校に来られる方は。そうすると、学校に来られる方は10パーセントくらいしかまだ来ない、90パーセントの方がまだ学校に来たことがない。文化祭等は来られるかもしれませんが、活動として学校に来られる方がまだまだ少ないのではないかと思います。50パーセントくらいの方が学校に足を運ぶようになってきたら、おそらく相当すごいことが起こるのではないかなと思います。私たちのいろいろな、コーディネーターのことをいろいろ、あるいは学校のことをいろいろ伝える広報紙を出していますが、まだまだそういう面では努力が足りない、もっとやらなければだめだなと思います。以上でございます。

司会

ありがとうございます。7年、8年という長い間学校にかかわっていただいているということで、成果、それから課題も一緒に出していただきました。

関連すること、関連しないことでもかまいませんので、そのほか、いかがでしょうか。

牛腸委員

西部コミュニティ推進協議会の牛腸でございます。

今、井浦委員が言われたように、非常にいいことがたくさんあると思っております。私も現場にいた人間として、そう実感しております。いいことはたくさんあって、それをあげればいいのですが、時間もありますので、課題ではないかと思って少し私なりにお聞きしたいと思いますので、あとで高居次長でもいいですし事務局でもいいですので、お答え願いたいと思います。

近々指導要領が変わりまして、英語学習がいよいよ本格的に始まるわけです。時数が不足だと、何をやるにしても子どもたちが毎日勉強する時間が、学校での時数が不足だと考えております。地域との連携も大事なのでしょうけれども、でもここの資料、区の資料も教育委員会の資料を見ても、やることが非常に広がってきている。広がるばかりで、さらにここに副題として「さらなる連携を」と書いてあります。もっと増やして充実させようということだと思わわけですが、先ほど次長も言われましたように教員の働き方、長時間労働の検討が必要だと、それも非常に深刻になっている。それを踏まえて2点言わせてもらいます。

連携によって、取組む時間、時数の確保を十分に考えられているのだろうかということなのです。今学校では総合学習があるわけですが、それでは納まらなくなるような気がしてならない。総合学習そのものも減らしていく、それも問題かと思えますけれども、子どもたちが活動する時数確保、本当に

現場では大変なのだろうと思います。さらにこれを、連携を深めていこうと  
いったら、限られているその時数をどうするのだろうと思うことが1点。

二つ目。非常にこの資料の中でもコーディネーターが非常に光を浴びて活  
躍されていることは、各学校で分かるのです。それによって各学校は生き生  
きしているということも分かるのですが、コーディネーターはそもそも仲を  
取り持つ役目だと考えるわけです。その結果、体験したことを学びにまで高  
めるには、やはりコーディネーターではなくて学校の担任、教員であろうと  
思うわけです。本資料の中で、担任あるいは教員がどのような役割をしてい  
るのが見えてこないのです。みんな、出ているのは地域の人、子どもたち  
と地域。担任は写真すら出ていない。何と情けないなと思うわけです。地域  
連携の中ではそれでいいのだろうかということで、担任が何をしているのか、  
問題はないのか、役割は、不足はないのかということをお聞きしたいのです。  
以上です。

司会

この後、今後どうあるべきかのところで相談していきたいと思います。

そのほか、今、課題、いいことはたくさんあると言っていたいただきましたけ  
れども、できればいいことをたくさんいただきたいと思うのです。具体で示  
していただければ。

赤塚委員

赤塚と申します。

学校と地域との連携ということで、具体的な事例をお話したいと思います。

中央コミュニティ協議会が秋葉区にございます。その中央コミュニティ協  
議会で昨年度から取り組んだ内容でございますが、ひとことで言いますと、  
あいさつ運動でございます。あいさつ運動につきましては、新津第一小学校、  
第三小学校、第一中学校に絞り込みまして、これは私どもの学区になります  
ので、西部、第三小学校は西部になっているのですけれども、そこで、端的  
に言いますとあいさつ運動であります。あいさつ運動は、具体的にあいさつ  
運動という掛け声ではなくて、実際にのぼり旗を用意し、横断幕を用意し、  
そしてキャッチフレーズを作りまして、そして学校とコミュニティ協議会が  
連携を取り、それを地域の町内会に希望数を取りまして各地域にそののぼり  
旗を立てる、あるいは横断幕を使用するという具体的な事例をやっております。  
今年度に入りましてようやくまとまりまして、これからというところだ  
しょうか。もう横断幕は全部各町内の希望数が出ておりますので、のぼり旗  
もそうです、これから具体化していくのではないかと考えております。

私も実は学校関係におりましたので、自分の学校の中にいるうちはやはり  
地域がよく見えていない、これは事実であります。では私が地域に戻って学  
校を見たときに、学校の中身がよく見えないというのが現実であります。こ  
こで大事なことは、やはり地域と学校が共通の課題をもつと言いますか、も  
う少し連携を図るような方向を模索する必要があるのではないかと考えてお  
ります。やはり掛け声だけではだめなので、やはり具体的な何かをしなければ  
だめだということだと思っております。

的をえた発言なのかどうか自信がないのですけれども、具体的な事例がないとなかなか先に進まないということかと思えます。

司会

ありがとうございます。今のご発言なのですけれども、実は中学生が小学校に出掛けて行ってあいさつ運動をするというのは非常にめずらしい取り組みだと思います。各学校ではやるのですけれども、それぞれ校種を超えて出掛けて行ってあいさつ運動をする。中学生にとっても非常にいい活動ではないかと思っておりますが、そういう活動はめずらしいと思っております。今、地域と学校の共通の課題というものが必要なのではないかという課題をいただきました。

そのほか、いかがでしょうか。

齋藤委員

金津コミュニティ振興協議会の齋藤と申します。

学校と地域のかかわりということなのですが、成果と言えるかどうか分かりませんが、今あいさつ運動のお話が先ほどありました。このあいさつ運動は、近年の社会情勢から見ると、子どもたちから見れば、我々大人、知らない大人にあいさつをしてはいけないとか、言葉を掛けられたら逃げろとか、そういう風潮が現在見受けられると思えます。

基本的に我々大人は、私は見守り隊員でも何でもないので、私のほうから、自分のほうからあいさつすると、必ず子どもたちから返ってきます。そういう意味で、何も子どもたちだけ強制するというのではないのです。我々大人が自ら進んで子どもたちにあいさつしていくということが大事だと、私は常々思っております。したがって、私は特に見守りということはやっておりましたが、朝のウォーキングで子どもたちによく会います。その中で、自分のほうからあいさつすれば、1週間くらいしますと必ず返事が向こうから返ってきます。そういうことが金津地区では見えたかなというようなことが、やはり一つの成果なのかと、自分では考えております。

課題としましては、先ほど教育コーディネーターのお話がありました。先生の役割とあって、たいそうなことは言えませんが、教育コーディネーターの資質と申しますか、それがやはり、学校と地域の、学校に対するアイデアと言いますか参加していただけるようなアイデア等を、私どもコミュニティ協議会のほうからも提案しますが、やはりコーディネーターのアイデアがほしいというのが私の考えなのです。したがって、どのような形の中でそれらをクリアして地域の活性化にもっていくかということは今後の問題ですけれども、少なくとも、やはり最初の、問題意識を持った状態でのアイデアの出し方、それからそれを実行していく実行力というのが協働の形で発展していくということが課題ではないかと思えます。

先ほど言い忘れましたけれども、特にこの中で、防災の関係も資料の中にはありますが、金津中学校では昨年、小学校もそうですが、起震車を新潟県に何台も呼びまして、実際に地震体験をしていただきました。中学校では全員やっていただきました。小学校は、震度3とか4、1とか2というのは危

ないかなという形の中で、高学年だけやっていただきましたけれども、やはりその人たちの感想を見ますと、実際に地震が起きたときにこんなになるのかという実感、実体験というものが非常に感想文には出ておりました。やはり人間、痛い思いをしないとよく分らないのが、我々も含めてあるのです。したがって、こういった防災教育については、実体験をとにかく普及していくということが、普及して防災に関する関心を持っていただいたということが成果ではないかと考えております。以上です。

司会

ありがとうございます。起震車、金津小中全員でしたか、かなりの数の生徒が、ほぼ全員体験したと。私も体験したのですけれども、実は、東日本大震災のものとかもありまして、けっこう。

赤塚委員

学校と地域の連携ということで、その観点で少しお話しますが、学校として非常にご苦勞をなさいまして、学校だよりを回覧していただいております。その学校だよりなのですが、依然として白黒、黒の活字ということで、活字もずいぶん小さいのです。超高齢化社会を迎えているわけなので、ほとんどの人は見ない、そして隣へぱっとやるという現実になっております。

まず一つは、住民の皆様、地域の皆さんが関心を持てるような印刷物が必要なのではないかと思います。それには活字が大きいことが必要です。それから、すべてのことを網羅して出てきますとこれもまた非常に難しいということで、やはり興味、関心のあるようなことに集中して書くといいのかなという感じがします。それにはやはり、どうしても紙面が制限されています。A4というサイズでやっていますので、なかなか難しいと思います。

もう一つは、これは予算の問題になるかと思うのですけれども、カラフルな印刷物、これはやはり必要かと思えます。私たちのところに今配られているものは、当然、白黒印刷ですと、我々も興味、関心がわかないと。だけれども、こうやって工夫されていますから、私たちも見やすくなっていますし、要領よくまとめておりますので。そういう感じがいたしますので、ぜひ、もし教育委員会サイドで何かできることがございましたらお願いしたいと思えます。

司会

たより、そちらは課題ということでよろしかったでしょうか。はい。

そのほか、よろしいでしょうか。

牛腸

牛腸です。

最初から課題を出して、ネガティブなタイプで申し訳ございません。反省しております。

成果ということで、実はこのコーディネーターが始まって10年近くになるのでしょうか、最初の頃は疑ったのです。地域が学校に入っていく、学校が地域にというのはいいけれども、地域から学校にあれをしてくれ、これをしてくれと要望されることが増えるのではないかと、学校がより忙しくなるのではないかと、非常に現場は心配したのですが、それが杞憂に終わってほっとしていたところであります。余計なことを言いました。

地域を知らない教員が校外学習に連れて行くときに、本当に困るのです。どこに、だれに頼めばいいのか、窓口。ということで、今、コーディネーターがいてくれることで、非常にそれがスムーズに行われるようになりましたし、余計な教員の負担が減ったとっております。そして、おかげさまで、コーディネーターがいることで、学校を応援したいなと思う人も入りやすくなったと考えております。私なども学校を助けようかな、応援したいなと思っております。いろいろなところのボランティア団体に顔を出しているわけですが、給食指導や登下校指導から、今度は高校受験面接まで今入っていく。普通であればそんなところまで敷居が高くて入れないと思うのですが、コーディネーターが仲を取り持ってくれるおかげで、そのようなこともできるようになっていった。小学校は小学校で、校外学習をしたあとにまとめる、それを地域の人が聞いてくれる、褒めてもらえる、それが自己肯定感につながるのではないかと思います。非常に、コーディネーターがいて仲を取り持ってくれることによって、地域と子どもたち、学校の関係がうまく回っているというように感じております。それを最初に言えばよかったと思っております。

司会

ありがとうございます。後でも、すごく印象深くなります。今、コーディネーターさんがいるおかげで応援したいという気持ちが出てきたし、子どもが結局ほめてもらえるので、そういうことがやはり自己肯定感につながっていくのではないかと、先生の負担も減るということで、非常にそういうことでよく回ってきている、最初は杞憂があったということで、よかったということでもあります。

ほかにございますでしょうか。そろそろ、あともうお一人くらいで。よろしいでしょうか。ぜひ多く意見をいただくとありがたいのですけれども。

東村委員

東村と申します。自治協議会の会長を務めております。

最近、学校が待ちの体制ではなくて、外に出ていくということも増えてきているのかなということを非常に感じています。私自身、新津第一小学校の学校評議員なども務めさせていただいている関係もあるのですが、新津の場合は、商店街がちょうど第一小学校区域にありまして、その商店街の放送局、どこか資料の中にもありましたけれども、放送局で毎週水曜日に第一小学校の情報ボックスということで、必ずお昼の時間帯に生放送を商店街の放送局でさせてもらっています。子どもたちが学校を出て放送局までやって来て、自分の声で学校のこととか、いろいろおしゃべりをする30分くらいの番組になっています。3年目になって、一緒に私もボランティアでさせていただいているのですけれども、どのような成果が出るのかなと、最初は子どもたちにマイクを持ってもらういい機会だな、商店街も音が出るから元気になっていかなうくらいだったのですけれども、だんだん波及効果が出てきていて、中学生もやりたいというようなお声があつて、第一中学校も夏休みだけなのですが放送局に来て自分たちで言葉を発したいということと、それから地域

の学校でも、なぜこれは第一小学校しかできないのという子どもたちの声がか  
けっこうぼつぼつと聞こえてきているというところ、非常にいい反応が出て  
きているなど思っているのですけれども、マイクを持って子どもたちが話を  
する、大人顔負けのマイクパフォーマンスがだんだん育ってきていまして、  
自分の言葉で自分の気持ちをどう伝えたらいいのかというところをこの商店  
街の放送局の中で培ってもらっているかと、そして自分で考える力、コミュ  
ニケーション力というものを育ててもらっているのかなと感じていました。  
それをどのように今後広げていくのかというところがまた課題になってきて  
いるかと思っています。

これは、学校側で、放送するだけではなくそれを学校でも聞かせてくれて  
いるというか、録音を取って学校でももう一度聞いてくれていることで、そ  
れぞれ、そこに行かなかった子どもたちも聞いて、想像力を働かせて、自分  
が行ったらどういってお話をしようかなというような想像力の力を育てている  
ということも感じています。実は、第一中学校の生徒さんが来たときに、第  
一小学校卒と第三小学校卒のお子さんのお話の仕方の差が、今回、実は非常  
に明確で、これは成果だなというところを感じたものですから、そのような  
お話をさせていただきました。慣れるということ、それから、そういった場  
面に出くわしたら自分はどうしようかなという力を育てるという面で、その  
ような活動をさせていただいています。課題と成果と、具体例でお話してし  
まったのですけれども、その一つです。

もう一つだけ。今後の課題として、秋葉区の場合、学童保育がNPOの皆  
さんなども一生懸命やってくださっていてほかの地域にはない動きもたくさ  
んあるのですけれども、子どもを育てていくという面では、やはり今親御さ  
んが働いていらっしゃる方が多いので、学童保育の大切さも叫ばれています。  
実は南区では、コミュニティ協議会が学童保育を展開しているということも  
聞いていますので、課題ということになるのか、そういった動きも見せてい  
ける部分なのかと感じております。自分が子育てもしたことがないのに偉そ  
うにすみません。

司会                    ありがとうございます。学童保育に関して地域でもう少しということでは  
しょうか。

東村委員            秋葉区の場合はNPOさんとかいろいろな方がやってくださっているの  
ですけれども、そういう地域の皆さんの参加というか協力というところも、今  
後、見えてくるのかなと感じました。これは実は自治協議会の研修のところ  
で、南区のコミュニティ協議会が自分たちで学童保育を運営しているという  
事例が発表されたので、そういったこともできるのだということを感じたの  
で。

司会                    分りました。ありがとうございます。

それでは、このくらいにしてすみません、次にいきたいと思えます。成果  
はたくさんあるということで、たくさん出していただきました。それから課



題も出ております。おもに課題の解決も含めてそうなのですけれども、それでは、秋葉区として今後どうあるべきか。課題の解決も含めてですけれども、全部これを解決することはできないと思うのですが、今後、秋葉区としてどうあるべきかということをもたまたこのあと話し合っていきたいのですけれども、ここでは、教育委員会の皆さんも第三者的に、秋葉区を今見たけれどもこういうところができるのではないかとのご意見があればぜひいただきたいと思っております。

それでは皆さん全員含めて、今後どうあるべきか。また少し時間を取りますので、3分くらい時間を取りますので、少し考えて、こうあるともっと秋葉区は盛り上がるのではないかと、いい点を伸ばせるのではないかと、課題解決できるのではないかとということで、3分ほど時間を取りますので、考えていただければありがたいです。メモ、頭の中で整理等していただければと思います。よろしくをお願いします。

だいたいまとまりましたでしょうか。

成果と課題を踏まえて、齋藤委員、お願いします。

齋藤委員

非常に難しいテーマなのですけれども。要するに今後の課題はどうあるべきかということですから、課題の問題点をどう潰していくかということだけでしかないわけですね。そうではないですか。

司会

そうでなくてもいいです。課題は解決しにくいものもありますので、すべて踏まえて、今後こうあったほうがいいのかという秋葉区のビジョンですね。

齋藤委員

そういう考え方もあるかもしれませんが。課題に対する対策ということが、これは基本なのですね、ストーリーとしては。

司会

そうですね。

齋藤委員

したがって、一番上の地域、学校に来る人が10パーセントだということなので、たしかにそうだと思うのです。やはり我々、学校がなければ地域もなくなるというように個人的には考えております。したがって、地域の学校はみんなですべて守っていくというような意味で、学校に行く人が多くなる、少なくとも50パーセントになってもらいたいという希望があるわけです。そういうことであれば、やはりいろいろなアイデアの中から、学校に行ける人、だいたい学校というのは地域の中心地にあるわけですから、お年寄りでも歩いて行ける距離にあるのではないかと思います。10分か15分歩けば行かれるのではないかとと思うのですが。そういった地域の中心地に対して、学校がもっと入りやすい、常にドアを開けておいて、その部屋に行けばだれでもお茶を飲んだりお話ができるというような場づくりというものの方が大事ではないかと考えております。その中で、先ほどのいろいろなアイデアというものを具現化した状態で手を打っていくと、今よりも少しはよくなるのではないかと考えております。以上です。

司会

ありがとうございます。アイデアが必要だと。そのアイデアの一つとして、

杉本委員

お茶を飲む場所を設けたりという場づくりを、だれでも入って行きやすいような場づくりをしてみたらどうだろうと、そういうところも既にあるかもしれませんけれども、そういうアイデアはいかがかということでありました。

二つ、発言させてください。これは教育委員会にもお聞きしたいことですので、できましたらお願いします。

一つは、今いろいろな意見、課題も出てきましたけれども、もっと、これだけ多くの小中学校で学校の事業を展開しています。全部消化できるのかどうかという問題もありますけれども、学校単位でそれぞれの課題を個々ばらばらに取り組んでいるのではないかと。教育コーディネーターが中心になっているのでしょうかけれども、個々に地域に下ろしていく形で事業を展開しているのではないかと思いますけれども。そういうこともある程度必要でしょうけれども、私はもっと全体的な活動の面をとらえて、要するに地域ごとに、私は小須戸ですけれども、小須戸地域は小学校が二つ、中学校が一つありますけれども、小須戸地域という地域の中で一つまとまった形で、学校支援協議会のような新しい組織づくりをやっていく中で、横の連携、縦の連携を取りながら、そういう展開の仕方も必要になってのではないかと思います。ただ、ばらばらに学校独自で地域に下ろしていくのではなくて、一つの制度づくりも必要ではないかという気がしています。

もう一つ。全然話が違いますが、子どものスポーツ離れについて発言させてください。今日はスポーツの話、青少年の健全な健康づくりの話が出ていませんけれども、個人的なことで恐縮ですけれども、私は現役を退いてから、地元の小学校ミニバスケットボールを十何年間見ていまして、現在は中学校の部活の指導を行っております。バスケットでございます。十数年やってきましたけれども、小学校のスポーツ活動の事業、もちろん教育委員会の方はご存じかと思えますけれども、かつては学校の部活としてあったものが、10年近く前からそれが社会体育に全部下ろされてしまって、学校は、小学校の放課後以降のスポーツについてはまったくタッチしていない状況です。こういった小学校のスポーツにおける現状をよしとしているのかどうか。それを検討する必要があると思うのです。学校は、とにかく先生方は忙しいからということで、いろいろ事情があって、小学校のいわゆるスポーツを全部社会体育に移行してしまったという実情は分らないわけではないのですけれども、それが多分に、小学生児童のスポーツ離れになっているということは事実でございます。その辺を少し見直す必要があるのではないかと。しかもそれは、ほとんどボランティア活動によってスポーツが支援されていると。それが一つ。

中学校の部活についてお話をしますと、最近、文部省のほうで中学校の学校支援、部活のあり方についての検討をするような動きが出てきていますけれども、実際、中学校における毎日の放課後の部活というのは、先生方も大変なご苦労があると思えますけれども、それに対して、私は実は外部指導員

として教育委員会に登録させているかと思えますけれども、そういう状況なのです。そういう外部的な指導委員といいますか、そういうものが非常に必要になってきているのが現状だと思います。そういうものの早い制度化、外部指導の体制づくり、それをやらなければいけないのではないかという気がするのです。新潟県では見附市あたりが早い動きをやっておりますけれども、学校の部活を支える体制づくりがこれから求められていくので、ぜひそれを軌道に乗せて、中学校の児童、生徒たちが健全に体育活動に親しめるような体制を熟慮、取るべきではないかということです。

先ほど言ったのは、文化的な面での体制づくりも必要ですし、体育関係、スポーツ関係における体制づくりというのが非常に必要になってきているということが私の申し上げたいことでございます。

司会

ありがとうございます。今、秋葉区独自というよりも、全体にかかる部分も出てきていますけれども、部活、運動不足、運動離れの点でもう少し体制づくり、小中個々にいろいろな課題を解決していくけれども、地域でまとまっているということは大丈夫なのかという不安でしょうか。ですから、そういうふうにするべきではないかという提案になると思うのですが、そういったところをやるべきではないかという話が出ております。

できればもうお一方くらい、秋葉区単独で特徴的なものということで、ではお二人で終わりにしたいと思います。田村委員、お願いします。

田村委員

小合コミュニティ協議会の田村です。

今この委員に、コーディネーター代表として井浦委員が出ています。私たちの小合のほうの担当なのですが、少し私たちも見えてこないものがずっと課題になっていたのですが、教育コーディネーターの選考基準というものが分らないのです。どのような形で選考されているのかということが分らないのです。地域によっても違うのでしょうか、今、井浦委員が8年もやりましたという中で、地域の中で8年間同じ人がやるのはどうなのかということが少し課題になったことがあります、はっきり言って。もっと地域の中にもいろいろな人がいるので、いろいろな人から順番制でやってもらうということも一つの手ではないかと思っております。

それで決まった時点で、また同じ人がとなったときに、同じような思考の中ではなくて、新しい人であれば新しいアイデアが生まれてきて、地域と学校との連携がまた違った形で示されるのではないかと、私は地域の中の代表として思っております。

井浦委員が悪いと言っているわけでは決してないのですが、そういう形の中で、いろいろな人からかかわってもらうことも一つの手ではないかと思っております。

それから、先ほど言ったように、地域の中にいるとよく分らないけれども、外のことがよく分るといったときに、ボランティアとか、そういう人が地域の中で地域のことをというのではなくて、秋葉区全体の中でボランティアを

登録制のような形でもって行って、どこからでも、ああこのことについてはこの人に頼んでみようかというようなアイデアもあっていいのではないかと。たしかに、自分の地域のことというのは意外と分らないのです。そういう意味では、ほかの地域が小合コミュニティ協議会を見て、小合地域を見て、こうだとかああだとかというのも新しい発見になるのではないのかと思っております。コーディネーター、学校、地域の秋葉区としての連携の中で一つのまとまりのようなものがあると、もっと全体が活性化していくのではないのかと常ひごろ思っていましたので、発言させていただきました。

赤塚委員

今後どうあるべきかということなので、非常に大きな課題ではないかと思うので、やはり具体性が伴わないと話が進まないという気がします。そこで一つ、各児童生徒が、地域に関心を高めるような教育課程の編成とありますが、学校経営といたしますか、そういうものが必要なのではないかと考えています。

具体的には、先ほどから出ています総合学習という時間の中で、やはり地域の文化や伝統というものに関心を高めるような、何か工夫ができないかということが一つです。

それから先ほどから出ていますけれども、転勤によって教員は新しい任地に行くわけなのですけれども、任地に行ってもさっぱりよく分らないということが事実だと思うのです。ですから、そういう意味合いでも、職員会議等で、職員研修の辺りで、地域の文化や伝統を学習する場面、教師自身です。それから、秋葉区でも行政サイドでかなりパンフレットといたしますか文献が用意されていますので、そういうものを用いて実際に職員研修をやってはどうかと考えると、それによって、学校と地域が連携していくことができるのではないかと思います。

もう一つは、やはり地域の人材活用を学校で進めていただきたいということがあります。かなりエキスパートの方、たくさんいらっしゃるのです。今、この部会の中にもお一人体育連盟の会長をやっている方がいらっしゃいますし、各サイドで皆さん、みんな優秀な方ばかりだと思うのですけれども、ということで、ぜひ人材活用も学校としてお願いできればと考えております。大丈夫ですか、まとまりますか。

司会

ありがとうございます。では、飯田委員で終わりにしたいと思います。

飯田委員

体育協会の飯田です。時間がないので遠慮していたのですが、要点のみ。2点あります。

一つは、私は子どもが学校へ行っていないので学校のことはよく分らない。それで、地域に回ってくる学校だより、これが非常に参考になります。学校も、私は第一中学校区ですが、学校の実情、例えば昨日も学力の問題が報道されておりますが、第一中学校は、昨年でしょうか、実態をちゃんと学校だよりを書いてくれました。私は、ああよくやった、勇気があるなど、このように思っております。それからスポーツ、芸能、その他ですね、文化も非常

に一生懸命活躍をしていることを見聞きしておりますが、これも遠慮なしにそういうところへ上げていただくとなおさらいいのではないかなど、理解するために助かります。

もう1点です。これも要点のみ言います。先ほど部活の話が出てきました。これはもうずっと10年も前からの課題であります。学校の教員がかつてと違って大変忙しくなっているようでございます。それから、部活の専門家ばかりではありません。それで、外部指導者をお願いするということがあるわけですが、ここで大事なことを一つ申し上げます。やはり部活は指導者によって左右されます。これは先日の甲子園を見ても分かるとおりでございますが、外部の指導者にお願いすることも現時点では大事であります。ここで大事なことは、外部の指導者と学校のコンタクトをしっかりとやるということです。任せるだけではありません。それから、外部の指導者も、かつてやったことがあるからというくらいでは、実際にはいい指導はできません。部活と学力の問題も関係があります。勉強もありますから、部活ばかりはできないです。そういうことで、最後に、外部の指導者と学校のコンタクトをしっかりと取るということは大事だと思います。

司会

ありがとうございます。貴重な意見をありがとうございます。

それでは、今、成果と課題、それから今後あるべきことということでいくつか話をいただきました。教育委員会のほうから何かご意見がもしあれば。なければ最後まとめて教育委員のほうからでよろしいでしょうか。よろしいですか。

それでは、今いくつかご質問等もありましたので、それを踏まえて、最後、いただきたいと思います。

次に、最後になりますけれども、これは社会教育施設に関して、本日、図書館と公民館のほうから資料をいただいておりますので、これについては紹介だけさせていただきたいと思います。既に活動内容についてはこちらのほうの資料に紹介してありますので、よろしく願います。

それでは白黒の印刷の紙の最後、資料3「秋葉区の図書館の取組み」ということで、今日は活動の紹介をお願いしたいと思います。新津図書館の石田館長、お願いします。18ページをご覧ください。

新津図書館  
長

皆さん、いつもお世話になっております。新津図書館館長の石田でございます。

最後の資料3をご覧ください。新津図書館の事業について、簡単にご紹介いたします。

新津図書館は大正14年、1925年10月に新津町立記念図書館として開館いたしました。現在の図書館は平成26年7月にリニューアルオープンした、初代から数えて3代目、創立92年になります。

実施している事業としましては、まず一つ目に、子育て支援事業としてブックスタート、赤ちゃんタイムを開催しております。ブックスタートは、秋

葉区健康福祉課の協力を得まして、1歳児歯科検診の際にボランティアが一組一組の親子に読み聞かせを行い、赤ちゃん向け絵本を1冊プレゼントしています。赤ちゃんタイムは毎週火曜日の午前10時半から12時まで、おはなし会と併せて実施しています。小さいお子さんを持つ保護者の方は、子どもが泣くからという理由で図書館を敬遠しがちですが、この時間だけは多少にぎやかになっても親子で図書館を楽しみましょうという時間にしております。

次に学校図書館への支援です。新潟市は、小中学校市立の特別支援学校や市立高校のすべてに司書を配置しております。公共図書館内にある学校図書館支援センターが、学校図書館活動をサポートしています。秋葉区は南区の学校図書館支援センターがサポートを担当しておりますが、学校図書館からの相談事や資料の貸出、搬送を新津図書館と連携して取り組んでいます。また、市の図書館では、小学生を対象に、低学年、中学年、高学年向けの「うちどく」リストを作成し、家族やお家で楽しむ読書を推進しております。また、新津図書館の2階には、秋葉区の教育相談室があります。今年度から、相談室に通う児童生徒への読み聞かせを始めました。本は世界への扉ですから、どんな子どもにも、どんな人にも世界を開く手渡しを行っていきたくと考えています。

最後に、図書館には司書がおります。知りたいことがどんな本に載っているのか、どこに探している本があるかなど、調べもののお手伝いをしています。今はインターネットで何でも検索できますが、インターネットの情報は随時書き換えが可能です。私どももインターネットを使用することはありますけれども、正確な情報を提供するためには、市立図書館全館で約180万冊の蔵書が力を発揮いたします。また、市内に本がなくても、全国の図書館から資料を提供し合う相互貸借システムもあります。国立国会図書館の本も、新津図書館まで送ってもらって閲覧することが可能でございます。

以上で、駆け足ではございましたが、図書館の紹介を終わります。ご清聴ありがとうございました。

司会

ありがとうございます。今、図書館の本も実はすごく学校のほうに入っていて、学校のほうも司書さんと連携しながら、新潟市では全部、すべての学校に司書が入っているという全国的にも珍しい市ですので、そういう意味では非常に連携できてきていると思っています。

16ページ、17ページの地区公民館の取組みなのですが、今日、館長はご都合で来られないのですけれども、実は新津の地区公民館は非常に学校の中によく入っていて、実は学校のほう、公民館の予算を使わせていただいてさまざまな取組みをやっております。私はいろいろな地域に行っていますが、このような取組みを、公民館が学校の中に入り込んでやっているというのは非常にめずらしいと思っています。学校にとっては非常にありがたい取組みでありますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。先ほど、コ

コミュニティの中にもたくさん公民館の取組みが入っておりますので、秋葉区の公民館、それから図書館、相当学校と連携できているということをご承知おきいただきたいと思います。

最後に、今日は教育委員と次長が来ていらっしゃいますので、いろいろな回答も含めまして、教育次長からひとことずつお話いただければと思います。最初に高居教育次長から、お願いいたします。

高居教育次  
長

いろいろな、活発な意見交換をありがとうございました。私のほうで回答できるものに関して、回答させていただきます。

はじめに牛腸委員から出た質問でございます。後半のほうは成果ということで、たしかに面接委員の選出とか、職場体験の60も70もある事業所を探すことは学校現場では非常に厳しくて、コーディネーターの方から探していただく、本当の成果だなと思っています。

そして、ご質問の中で、時数は確保できるのかというお話もありました。どこの区へ行っても、何かこの行事が一発花火で終わっているのではないとか、毎年毎年異なる活動をしているというような意見が出ています。ただ、教育委員会としましては、あくまでも総合的な学習の中等で、教育課程に位置付けた事業として集中と選択を図るよという地域教育推進課あるいは学校支援課からの指導はしっかりとしております。教育課程に位置づけるよということはどういうことかといいますと、当然、その背景には、たしかな学力ということがありますので、学校としてはこの事業を集中と選択をしながら、前年度やったものをさらに充実させるためにどうしていくのかということ地域の方たちと検討していくことで、牛腸委員からご心配いただいておりますが、年々改善されているというふうに教育委員会としては判断しています。

二つ目の、担任の姿がまったく見えないのだけれどもというお話がありました。学校現場は主役ですので担任を前面には出したいのですが、子どもの姿とか地域のゲストティーチャーを中心に写真を撮っておりますので、ゲストティーチャーは専門性の高い方が多くいらっしゃいます。そういう意味でご了解いただければありがたいと。担任も、本当にコーディネーターあるいは地域コーディネーターと連携を取りながら、精一杯子どもたちのためにどういうふうに事業を組み立てていったらいいのだろうということで努力はしております。

それから、赤塚委員の学校だより、印刷物の件でお話がありました。学校は、保護者に出すだけではなくて地域へ配って、各自治会があつてその中に班があるので、回覧を回すので、枚数が膨大になるのです。これは、学校配当予算の中で毎回カラーで印刷すると、私たちが学校にいくら使ってもいいと言えはいいのですが、配当の中なので、ただ、今おっしゃったように、たよりを出す愛読者が離れていく、そうであれば出す意味がないので、その辺は、教育委員会も予算の部分では少し厳しいのですが、愛読者を増やせるよ

うな方法を学校と検討していきたいと思っております。

それから杉本委員の、個々がバラバラで、市全体で取組む制度が必要ではないか。正直なところ、育成協、あるいは大きなところではコミュニティ協議会も中学校単位であるかと思いますが、実は学校で取り組む内容については、学校の独自性、校長先生にゆだねられています。ですから、教育委員会がこうなさいということは越権行為なので、校長先生方が、自分はどういう学校経営をしたいというもとでやっておりますので、同じ地域であっても取組みが違うことはお許しいただければありがたいと思いますし、地域の実態、子どもの実態、職員の実態を十分に加味しながらビジョンを立てているかと思います。

それから二つ目のスポーツ離れの件なのですが、これは、体力の診断がありますが、決して以前から大きく落ちたということではないので、体育の事業が充実したということと、クラブチーム、地域の運動系のものが増えてきているということで、実は学校週5日制が始まりまして、小学校は部活を全部廃止というか手を引いてしまいました。これは、5日制の趣旨は、あくまでも地域で家庭で子どもは育てましょうということできあがって、その趣旨に則って小学校は、ただスポーツ離れはどうなのかと、私も中学校の教員でしたので、中学校に入って運動部に入る子の率は決して減ってはいないと思っておりますので、今後も、実際の数値をお示しすればいいのですが今ここには数値を持ち合わせていないので本当に自分の経験でしか話できませんが、ご心配の部分に関してはまた少し検討をさせていただきたいと思っております。

田村委員のコーディネーターの選考方法については、ここに課長がおりますので、課長のほうから回答させていただきます。

地域教育推進課長

地域教育推進課長の緒方と申します。よろしくお願いいいたします。

コーディネーターの選考基準、選考の仕方というご質問についてです。地域教育コーディネーターは学校、それから地域、両方についてよく理解をしてくださって、学校と地域に対してつなぐ熱い思いを持ってくださっている方という条件だけです。免許等は特に問いません。ですので、そのような方がいらっしゃるかどうか、どの方を推薦するかということにつきましては、学校、そして地域、そして保護者の代表であるPTAの皆様などの皆様で構成されているパートナーシップ推進会議という会議を年1回以上開いていただいて、そこでお願いするという形になっております。地域教育コーディネーターは1年ごとの更新制になります。また来年度どうしますか、また翌年度どうしますか、毎年確認をしていながら、引き続きやっていただくのか、あるいは替わっていただくのかという検討をさせていただいているかと思えます。よろしくお願いいいたします。

司会  
山倉教育委

ありがとうございます。では山倉教育委員、お願いいいたします。

学校と地域のつながりという中で、コーディネーターさんは本当に大切な



員

存在だと思えます。私も自分の住んでいる地域でコミュニティ協議会活動や育成活動をしております。そのときにやはり学校の子どもたち、生徒たちを巻き込むときは、必ずコーディネーターさんをお願いして一緒にやっていたいております。今日もコーディネーターさんのお話がいろいろありましたが、やはりコーディネーターさんと学校だけではなく、そこで育成協、コミュニティ協議会、みんなでつながってあいさつ運動をなさっているというところもありましたし、やはりみんなで知恵を出し合って、助け合って、地域を盛り上げていってほしいと思えます。

この資料の中でも、秋葉区の方の地域活動貢献が非常に多いということを見ました。やはりこうやって地域の貢献に子どもたちが参加するところは、前に警察の方から聞いたのですが、非行に走る子が少ないといえますので、ぜひぜひこれからも地域活動、子どもたちを含めて一緒にやっていただけたらと思えます。

司会

ありがとうございます。では最後、齋藤教育委員、お願いいたします。

齋藤教育委員

新潟市教育委員会が実施しています、今日お集まりの皆さんも含めて、学校と地域を結ぶパートナーシップ事業は全国に先駆けて展開している事業で、私は個人的に、市の職員でも何でもありませんが非常にすばらしい事業だと思っています。今年で11年目を迎えたということで、日々、今日お集まりの皆様方に、地域の皆様方に支えられている事業だと思っています。

今、そういった形で地域の大人と付き合っている、触れ合っている子どもたちがいずれ大きくなります。子どもたちが大きくなったときに、僕ら、小学校、中学校のときに地域の人に支えられてきたのだなということは必ず覚えていると思えます。それが親になって、また新しい子どもたちの世代に伝わっていくことを、本当に私は願っています。

今日、すばらしいお土産をいただきました。支援センター長からいただいたのですが、「みりよくノート」、ここに、各コミュニティ協議会に配っているそうですし、小学校5年生全員に、この、地域の散歩をつうじて地域の魅力が書かれています。すばらしいものだと思って、私は月1回の教育委員の意見交換のときに必ずこれを持って、次回の教育委員会に行こうと思っておりますが、もう一つすばらしい、これは「アキハスプロジェクト」、これは成人式に皆さんおわたしするのだそうですけれども、東京地区に1,200部、要するに秋葉というのはすばらしいところなのですよということもPR、外にもPRしているということで、すばらしい取組みをされているのだなと思っております。

今日は本当に限られた時間で、なかなか皆さん思っていることを全部吐き出すことはできなかったと思えますが、私と山倉委員は秋葉区の担当で、各中学校区の教育ミーティングにもおじゃましております。そのためのために、非常に貴重なご意見を伺うことができました。今日はどうもありがとうございます。ありがとうございました。

司会

どうもありがとうございました。

本日私たちみんながこの「アキハスムプロジェクト」のポロシャツを着ておりますので、ご覧いただければと思います。

それでは少し時間をオーバーしてしまいましたが、貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。今後に生かしていきたいと思えます。それではこの後、自治協議会になりますが、少し押しておりますので、3時5分からということで、このあと休憩に入って3時5分から始めたいと思えます。少しご休憩いただきたいと思います。

以上で秋葉区教育ミーティングを終わらせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

議 事

5 閉会